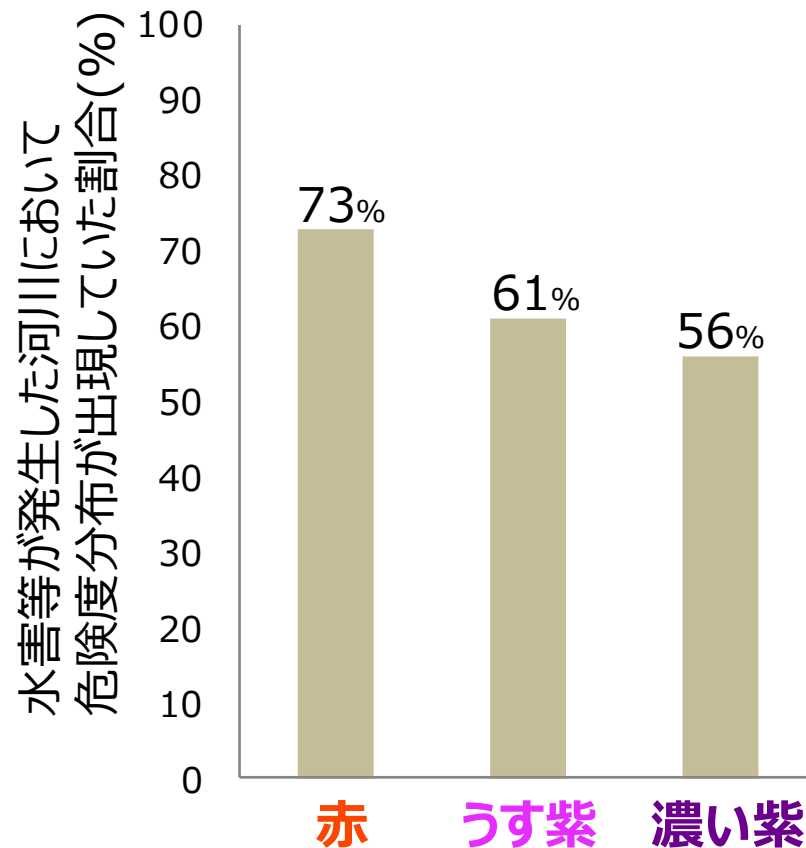
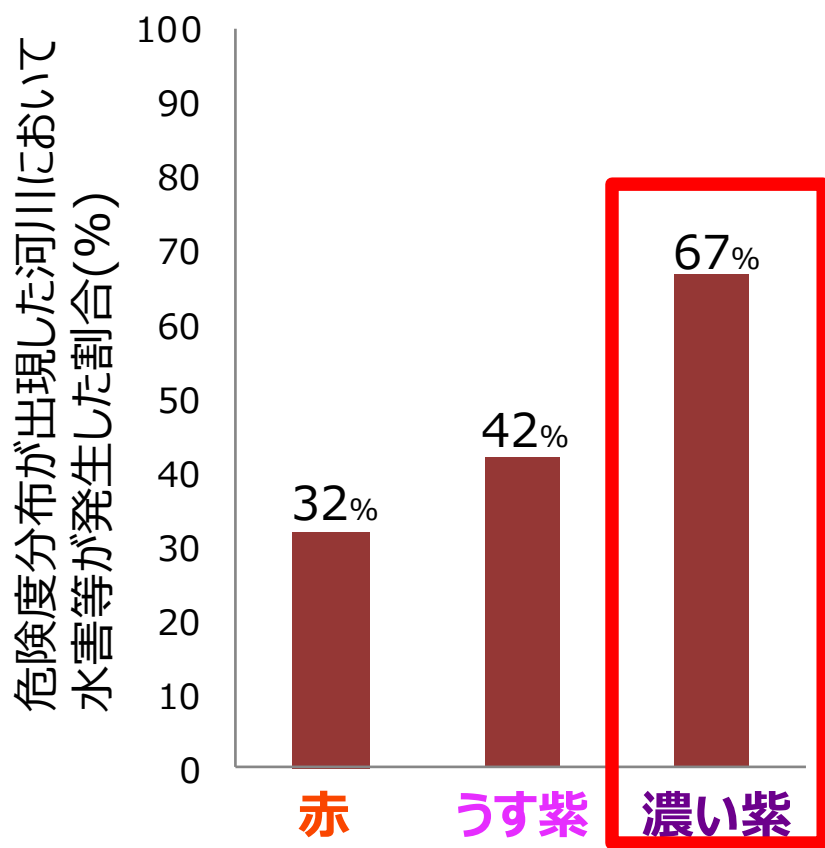


# 洪水警報の危険度分布と水害発生の関係

- 「極めて危険」（濃い紫）が出現した河川のうち水害等が発生した割合は67%。  
赤、うす紫、濃い紫の順に水害等が発生した割合が高まる。
- 水害等が発生した河川のうち「警戒」（赤）が出現していた割合は73%。  
「警戒」（赤）は災害の見逃しを少なくすることを重視。



※ 平成29年7月九州北部豪雨において被害河川の多かった福岡県・大分県を対象に、被害の有無と危険度分布の最大危険度の色を河川ごとに集計し算出。ただし、洪水予報河川の予報区域を除く。被害河川数は33河川。

※ 被害の情報は、内閣府資料「6月30日からの梅雨前線に伴う大雨及び平成29年台風第3号による被害状況等について」（平成30年1月17日12:00現在）を用い、家屋や田畑への浸水及び河岸損傷等の被害を対象とした。被害発生時刻は考慮していないため、出現時点で災害が発生していたか否かは不明。

※ これは速報であり、数値等は今後変わることがある。